



平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 日伝

コード番号 9902 URL <http://www.nichiden.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福家 利一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長兼総務部長 (氏名) 檜垣 泰雄

TEL 06-7637-7000

四半期報告書提出予定日 平成27年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	49,398	—	2,210	—	2,309	—	1,642	—
27年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 649百万円 (—%) 27年3月期第2四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	104.50	—
27年3月期第2四半期	—	—

(注) 平成28年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年3月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第2四半期	78,040	62,020	79.5
27年3月期	—	—	—

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 62,020百万円 27年3月期 一百万円

(注) 平成28年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年3月期の数値は記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	55.00	55.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	103,500	—	5,400	—	5,520	—	3,610	—	229.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成28年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期2Q	15,943,000 株	27年3月期	15,943,000 株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	241,071 株	27年3月期	205,944 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期2Q	15,716,983 株	27年3月期2Q	15,737,122 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当社は平成28年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。
2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
4. 補足情報	10
(生産、受注及び販売の状況)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較分析は行っていません。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、中国経済の先行きに不透明感が強まり、それに伴う国際金融市場の不安定化の影響を受けた結果、輸出の伸び悩みや在庫調整の遅れによる生産の停滞など、持ち直しの動きに足踏みがみられました。

当社グループを取り巻く機械器具関連業界においては、企業の設備過剰感の改善が続き、設備投資計画も総じて底堅く、機械受注も増加傾向が続いた結果、堅調に推移いたしました。

このような状況の下、当社グループは、平成27年度を初年度とし平成29年度までの3か年中期経営計画『NEXT FIELD 2017』を策定し、全社員が一丸となって、ユーザーを見据えたビジネス領域拡大のため、当社の「新たな商社機能」を強化し、提供価値の向上に取り組んでまいりました。

具体的には、平成27年5月に、当社の経営方針・具体的施策についてお取引先様にご理解・ご協力をいただくため、「事業方針説明会」を実施いたしました。また、平成27年6月に東京ビッグサイトで開催された「国際食品工業展 (FOOMA JAPAN)」及び「機械要素技術展」に、昨年に引き続き当社子会社「岡崎機械株式会社」と協同で出展いたしました。また、プライベート展示会として、各営業所主催で「地域MEKASYS展」を開催し、「商売の芽」となる情報獲得機会の増大に取り組みました。展示会場ではダイジェスト版「ロボット&周辺機器ガイド」を配布し、自動化システムへの取組みについて積極的なPRを実施し、平成27年9月には総ページ数189ページのカatalog版「ロボット&周辺機器ガイドvol.1」を発刊いたしました。更に平成27年9月に当社関連会社「株式会社プロキュバイネット」において、外出先での活用促進に向け「スマホ専用サイト」を開設いたしました。

設備面では、平成27年8月に戦略的在庫拠点及び東部地区のデリバリー機能を強化するため、東部物流センターを埼玉県久喜市に新築移転いたしました。平成27年9月には豊橋営業所を新築移転し、販売力の強化とサービスの向上に取り組んでまいりました。また、資産効率のため旧中部物流センター（愛知県小牧市）の土地及び建物を売却いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におきましては、売上高493億9千8百万円、営業利益22億1千万円、経常利益23億9百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、16億4千2百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、780億4千万円となりました。

流動資産は、587億4千1百万円となり主な内訳は、現金及び預金が269億1千7百万円、受取手形及び売掛金が219億3千2百万円となっております。

固定資産は、192億9千8百万円となり主な内訳は、有形固定資産が130億4千2百万円となっております。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、160億1千9百万円となりました。流動負債は、128億3千7百万円となり主な内訳は、支払手形及び買掛金が106億8千万円となっております。

純資産は、620億2千万円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、255億7千6百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、9億4千6百万円となりました。これは主に、たな卸資産の増加額が5億6百万円、法人税等の支払額が10億4千4百万円あったものの、税金等調整前四半期純利益が24億9千5百万円、売上債権の減少額が7億6千万円あったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、14億6千3百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が15億8千5百万円あったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、10億5千2百万円となりました。これは、配当金の支払額が8億6千4百万円あったこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期通期の連結業績予想につきましては、現時点では、平成27年5月11日に公表いたしました「連結決算開始に伴う連結業績予想に関するお知らせ」からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、第1四半期連結会計期間より岡崎機械株式会社、日伝国際貿易(上海)有限公司の重要性が増したことから、より連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 追加情報

① 企業結合に関する会計基準の適用

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)を、第1四半期連結会計期間から適用し、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上しております。

企業結合会計基準の適用については、企業結合会計基準第58-2項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、過去の期間のすべてに新たな会計方針を遡及適用した場合の第1四半期連結会計期間の期首時点の累積的影響額を利益剰余金から減額しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

② 退職給付制度の移行

当社は、平成27年7月1日付で確定給付企業年金制度から確定拠出年金制度へ移行いたしました。この移行に伴う会計処理については、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用しております。

本移行に伴い、当第2四半期連結累計期間の特別利益として3億3千4百万円を計上しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

当第2四半期連結会計期間
(平成27年9月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	26,917
受取手形及び売掛金	21,932
電子記録債権	3,732
商品及び製品	5,503
その他	661
貸倒引当金	△5
流動資産合計	58,741
固定資産	
有形固定資産	13,042
無形固定資産	402
投資その他の資産	
その他	5,859
貸倒引当金	△5
投資その他の資産合計	5,853
固定資産合計	19,298
資産合計	78,040
負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	10,680
未払法人税等	710
賞与引当金	603
その他	843
流動負債合計	12,837
固定負債	
その他	3,182
固定負債合計	3,182
負債合計	16,019
純資産の部	
株主資本	
資本金	5,368
資本剰余金	7,283
利益剰余金	47,917
自己株式	△671
株主資本合計	59,897
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	1,981
為替換算調整勘定	142
その他の包括利益累計額合計	2,123
純資産合計	62,020
負債純資産合計	78,040

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	49,398
売上原価	42,265
売上総利益	7,132
販売費及び一般管理費	4,921
営業利益	2,210
営業外収益	
受取配当金	56
仕入割引	178
その他	48
営業外収益合計	283
営業外費用	
支払利息	33
売上割引	140
その他	10
営業外費用合計	184
経常利益	2,309
特別利益	
固定資産売却益	66
退職給付制度改定益	334
特別利益合計	400
特別損失	
固定資産処分損	3
減損損失	210
特別損失合計	214
税金等調整前四半期純利益	2,495
法人税、住民税及び事業税	675
法人税等調整額	177
法人税等合計	853
四半期純利益	1,642
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,642

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間
(自平成27年4月1日
至平成27年9月30日)

四半期純利益	1,642
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△569
為替換算調整勘定	14
退職給付に係る調整額	△438
その他の包括利益合計	△992
四半期包括利益	649
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	649

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	
当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	2,495
減価償却費	238
減損損失	210
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△388
売上債権の増減額(△は増加)	760
たな卸資産の増減額(△は増加)	△506
仕入債務の増減額(△は減少)	△420
その他	△435
小計	1,955
利息及び配当金の受取額	70
利息の支払額	△33
法人税等の支払額	△1,044
営業活動によるキャッシュ・フロー	946
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△21
定期預金の払戻による収入	1
有形固定資産の取得による支出	△1,585
有形固定資産の売却による収入	358
投資有価証券の取得による支出	△240
投資有価証券の償還による収入	100
その他	△76
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,463
財務活動によるキャッシュ・フロー	
自己株式の取得による支出	△110
配当金の支払額	△864
その他	△77
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,052
現金及び現金同等物に係る換算差額	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,568
現金及び現金同等物の期首残高	27,144
現金及び現金同等物の四半期末残高	25,576

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

平成27年6月22日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議し、平成27年6月23日に自己株式を取得いたしました。

取得した株式の種類 普通株式

取得した株式の総数 35,100株

株式取得価格の総額 110百万円

取得方法 東京証券取引所の自己株式立会外買付取引 (ToSTNeT-3) による買付け

4. 補足情報

(生産、受注及び販売の状況)

第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較分析は行っておりません。

① 販売実績

期別	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	
区分	金額(百万円)	構成比(%)
動力伝導機器	21,706	43.9
産業機器	11,189	22.7
制御機器	16,502	33.4
合計	49,398 (608)	100.0 (1.2)

(注) 1 ()内は輸出高及び輸出比率であり、内数であります。

2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

② 仕入実績

期別	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	
区分	金額(百万円)	構成比(%)
動力伝導機器	18,442	43.3
産業機器	9,651	22.7
制御機器	14,490	34.0
合計	42,584	100.0

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。